

横須賀市廃棄物減量等推進審議会（第66回）議事概要

- 1 日 時 平成31年(2019年)1月29日(火) 午後2時00分から4時00分まで
- 2 場 所 横須賀市役所本館3号館5階 正庁
- 3 出席委員 青委員、飯田委員、石渡委員、岩澤委員、加藤委員、北村委員、清宮委員、  
國分委員、佐藤(明)委員、佐藤(幸)委員、関矢委員、福本委員、藤田委員、  
松本委員、米村委員
- 4 事務局 資源循環部 小川部長  
資源循環推進課 山口(里)次長、関澤課長補佐、石川係長、高久係長  
資源循環総務課 高野課長、鈴木課長補佐、菱沼係長、大野田主任、  
山崎主任、大野  
廃棄物対策課 坂下課長、竹見係長  
資源循環施設課 高橋課長  
広域処理施設建設室 上阪室長  
リサイクルプラザ 佐藤(正)館長  
南処理工場 山口(克)工場長  
資源循環久里浜事務所 佐藤(洋)所長
- 5 傍聴者 なし

6 議事内容

開会

事務局が定足数である半数以上の委員の出席を確認し、会議の成立を報告した。

議事

(1) ごみ処理基本計画の進行管理（平成29年度実績）

○佐藤(幸)委員長 それでは、議事に入ります。議事（1）「ごみ処理基本計画の進行管理平成29年度実績(案)」(廃棄物減量等推進審議会(第65回)の意見等への対応)について、事務局から説明してください。

○資源循環総務課計画調査係長 (資料1、資料2に基づき説明)

○資源循環推進課長 （資料2、資料3に基づき説明）

○佐藤(幸)委員長 事務局の説明について、質問、ご意見のある方いらっしゃいますか。

○岩澤委員 資料1について気が付いたことを意見として申し上げます。3ページに「(参考)」として、「ごみ処理経費の推移」のグラフがあります。凡例は「最終処分費、中間処理費、収集運搬費」となっていますが、1ページの経費の表現では、「総処理経費、収集経費、中間処理経費、最終処分(埋立)経費」となっております。同じ意味の言葉に表記の異なる経費名があると誤解を招く恐れがありますので、統一しておいた方が分かりやすいと思います。次に、5ページの基本施策3-(2)に具体的施策として「①直営委託区分」と書かれていますが、これでは具体的にどのような施策なのか分かりませんでした。具体的施策の項目としてはもう少し説明があると分かりやすいと思います。同様に基本施策3-(4)-①のところでも、「最終処分」という表記に何か適切な言葉を足された方が良いのではないかと思います。次に、8ページ(3)-①の表中の廃蛍光管の本数表記について、本文が括弧付きの表記(〇〇本)となっていますので、表中も(〇〇本)とした方が分かりやすいと思いました。

○資源循環総務課長 1点目については、精査し同じ言葉を使いたいです。2点目については、言葉をプラスできるよう工夫したいです。3点目については、括弧付きの表記に修正いたします。

○佐藤(幸)委員長 この修正については、修正後、何らかの形でお知らせいただけるのでしょうか。

○資源循環総務課計画調査係長 修正後、確定版を委員の皆様へ郵送させていただきます。

## (2) その他

### ①ごみの分別及び再資源化の取組状況について

○佐藤(幸)委員長 続いて、議事の(2)その他の「ごみの分別及び再資源化の取組状況について」事務局から説明してください。

○資源循環総務課計画調査係長 （資料4に基づき説明）

○佐藤(幸)委員長 この再資源化に係る経費については、収入より支出の方がはるかに多いのですが、これは、循環型社会の実現に向けての資源物の再資源化の推進と、最終的には最終処分を減らすことによって環境負荷の低減を図りたいという方針が、揺るがないというご説明

でした。品目ごとの課題と対応につきましても、こういう対応をしていただければ、こういう経済効果があるという試算を示していただきました。事務局の説明について、ご質問ご意見のある方いらっしゃいますか。

○佐藤(明)委員　私の事業所では、鉄スクラップを久里浜港から船で山口県宇部市の電炉メーカーなどに1回あたり約1,300トンを出しています。鉄スクラップから作られるインゴットの品質基準は、銅の混入数値が4以下なのですが、昨年12月14日に下級品のスクラップ300トンで8という数値が出てしまいました。何回か下級品のスクラップを測りましたが全部8という数値が出てしまい、それで大トラブルになりまして、いまだ解決していません。上級品はそのまま引取可能なのですが、下級品について、大至急原因を突き止めなければいけないということで、入ってくる物を検査したのですが、資源回収協同組合からの受入物に大量の小型モーターが入っていました。モーターには細い銅線が含まれています。その後、資源回収協同組合にはチェックしていただいています。家電リサイクルに入っていない家電品目はたくさんあるのです。今回一番多かったものは、換気扇のファンです。表から見たら全く分からなくて、裏から見たら小型モーターがあるのですが、それが大量に入ってきていました。洗濯機にも小型モーターがありますが、それもはずされて大量に入ってくるのが判明しました。私の事業所のプレス機には係員をつけまして、モーターが入っていないか監視をしている状態です。この大もとは、中国で2017年以降、「雑品」といいまして、鉄にいろいろモーターとかアルミ、ステンレス、プラスチック等を含めたものですが、買わなくなってしまい、持って行き場がなくなり、我々の扱うスクラップに混ざり込むようになりました。他社ではシュレッターするところもあります。シュレッターすると良さそうに見えますが、シュレッターくずに銅が混ざり、引取価格が非常に高騰しています。シュレッターくずを受け入れる会社もどうしようもない状態です。「集団資源回収品目」の「缶以外の金属」や「粗大ごみ」には、色々な物が含まれています。それは非鉄、分かりやすい物で小型モーターですとか、ガスレンジの裏側の配線等です。資源回収協同組合にはできる限り対応していただいているのですけれども、資源回収協同組合以外からも色々なところから入ります。特に集団資源回収品目については資源回収協同組合のお考えもお有りだろうと思いますので、資源回収協同組合は是非市と協力し合って対策をとっていただきたいと思います。プラスチックも含めてしばらくの課題になりそうです。銅やステンレスが安くなったことも原因かと思えます。中国が雑品を買わなくなって、一部が近隣のタイ、ベトナム、マレーシアに流れています。ベトナムには4,000トンくらい行きましたが、下級品は輸入禁止になりました。

○佐藤(幸)委員長　スクラップの品位が低くなっていることについては、鉄以外に本来分離した方がよい小型モーターとかそれに派生する銅線やプラスチックとかがあります。そういうものが入り込んで品質が悪くなっていて、その出所が資源回収協同組合であるということですか。

○佐藤(明)委員　今は横須賀で、80～90パーセントが私の事業所に来ています。

○藤田委員　「集団資源回収」では違反ステッカーを貼れる物は回収していません。品目も決まっていますから、回収対象であれば回収して金属問屋に引取っていただいています。ガスレンジも回収対象ですのでお世話になっています。中国に「雑品」が売れなくなった時点で、流れが変わってきたのです。行政とも対策について話をしていますが、回収対象品目を変更する場合は市民への伝達に時間がかかるので、その間は、ガスレンジは集団資源回収品目として回収し、これまでと同様に引取りをお願いしようと思っています。「雑品」の影響でこうなっていますが、今後どうなるのか分かりません。「集団資源回収」は、違反ステッカーを貼って置いてこられますが、分からない物もあります。例えば、換気扇を回収してしまい、引き取っていただいた物に含まれてしまっているかもしれません。表から見たものを回収していますので、モーターは小さいですし、なかなか中まで見ていられないということも事実です。どのくらい混入しているか割合を出したことはないですが、そんなにはないと思います。

○佐藤(明)委員　中の方もできるだけ注意していただけたらと。

○藤田委員　ただ、「缶以外の金属」は事業系なのかどうかはよく分かりません。蛍光灯をどきっと持ってこられたら場合は、蛍光灯にはコンデンサが付いていますから、これは事業系だからだめですと言えますが。品位低下対策の一つは、手作業で解体すればよいのです。コードは切ればよいですし、非鉄を取ればそれはそれで売れるわけですから。ただし、経費がすごくかかるので、市に対策をとってほしいのではないかと思います。

○佐藤(幸)委員長　「集団資源回収」というか、家電品の問題になりますかね。

○佐藤(明)委員　家電品に限ったことということではないですね。ガスレンジが家電品かというところでもないですし。金属を含むあらゆるものですね。

○佐藤(幸)委員長　市としてはこれについてご意見ありますか。

○資源循環推進課長　「缶以外の金属」につきましては、本市では、例えばガステーブル、金属製のストーブ、ファンヒーターは大丈夫ですと、市民の方々にお話ししておりますので、今後、回収後のリサイクルでうまくいかないという状況になりましたら、直接、集団資源回収協同組合とお話をさせていただいて、品目変更させていただくかもしれませんが、今のところ、市民の皆様には集団資源回収品目ですとお知らせしておりますので、市況、状況に応

じてご相談させていただきたいと思っております。

○佐藤(幸)委員長　市としては状況に応じて相談したいということです。製品の中に入っているモーターや、冷蔵庫のコンプレッサー等はスクラップを回収するためには邪魔なものです。以前、行政で処理していた時には必ず外していたと思います。モーターは色々な製品に入っていますから、市と協議を進めていって良い方向を目指していただきたいと思います。

○佐藤(明)委員　ご検討よろしく申し上げます。

○藤田委員　機械で選別しても駄目なのですよ。本当に壊すには手選別しかないのです。そうするとかなりの経費がかかります。金属は粗大ごみでも集めています。そちらの方からも色々出てくると思いますけど。集団資源回収の方は品目さえはっきりすればきちんとできるはずですよ。

○佐藤(明)委員　昔は人件費の安い方々にばらしていただいていたのです。今は人件費が上がり非鉄金属の相場が下がってしまっています。2トン車でスクラップを集める専門の業者があったのです。そういう方が高齢化して廃業してしまったので、小さい品がどうしても集団資源回収に出されてしまっているようです。ある意味で町のプロがいなくなってしまったのです。

○佐藤(幸)委員長　中国の輸入規制が色々な方面で影響が出ているようです。今後も検討をお願いします。ほかにご質問ご意見ある方いらっしゃいますか。

○國分委員　「ベールへのガラス混入」や、「ベールの品質検査」とありますが、「ベール」という言葉を初めて聞いたように思います。

○リサイクルプラザ館長　意味を申し上げますと、ペットボトルの「ベール」というのは、キャップ、ラベル、異物を取り除いた状態のものを集めてギュッと圧縮してビニール紐で巻いたものです。出荷しやすいように小さく圧縮梱包したものを「ベール」といいます。

○國分委員　その中にガラスが入るのですか。なぜペットボトルの中にガラスが入るのですか。

○リサイクルプラザ館長　ペットボトルは混合収集、つまり、「缶・びん・ペットボトル」として一緒に集めています。そうしますと、リサイクルプラザに来る途中で、びんが割れることがあります。それがペットボトルに付着してしまうのです。そのようにして混入し

てしまうという状況です。

○國分委員 「<sup>さんまる いちまる</sup>30・10運動」も初めて聞きました。

○資源循環推進課長 全国的にも行っており、例えば、宴会では始まってから30分間と終わりの10分間は自分の席に戻って料理を食べましょう、家庭では毎月10・30日に冷蔵庫の中身をチェックしましょう、ということと呼び掛けております

○國分委員 これはここで初めて出しましたか。

○資源循環推進課長 広報紙やホームページ等に載せさせていただいております。

○佐藤(幸)委員長 よろしいでしょうか。ほかに意見等がある方はいらっしゃいますか。

○石渡委員 この資料、かなりご苦労されてお作りになられたのでは。非常に難しい作業であったのではないかと思います。さて、この資料を基に、どのように市民に協力を求め啓発するのか、ということを考えさせていただきました。2ページの「3. 再資源化に係る経費」について、欄外に「収集に係る経費や人件費を含まない」とありますが、これらの経費が非常に大きいのではないかと思います。支出が合計で14.4億円かかっているということですが、実はもっと多いと思われれます。計算が出来ればですが、収集から中間処理にかけての経費をもっと思い切って出しても良いのではないかと。つまり、リサイクルは非常にお金がかかるもので、その上で、皆さんに協力をしていただければ、これだけの経済効果が得られるのだ、ということをもっと市民の皆さんに知ってもらいたいと思います。それから個別の品目ごとの話ですが、大きく分けると、分別リサイクルの制度が確立していて、排出時に市民の皆さんにさらに協力を求める部分と、資料のその他の部分の「生ごみの水切り」ですとか「食品ロス」をどうするかですとか、排出源である家庭に排出前にどういう協力を求めるかという部分の2つであろうと思います。分別の徹底協力については、非常に分かりやすく課題と対策が書かれていると思います。そこを端的な言葉で表現されていたら良いのではないかと思います。ただ話として難しいのは、「容器包装プラスチック」についても、ベールの品質検査が連続して×をつけられる項目があるなど、全体の仕組みが分かってないと分かりにくい話ですとか、ペットボトルについても、なぜ「缶・びん・ペットボトル」を混合収集にしているのかという話になった時、その方がびんが割れにくいからとか、そういう部分まで話をしないと市民はなかなか納得しないのかと思います。そういう中で、例えばペットボトルの売払価格が県内平均より低いというお話しですが、1トン当たりの金額をお出しいただいた方が良いのかなと思います。そうでないとベールの品質が県内平均まで向上した場合、これだけの収入増になりますという話につながらないだろうと思います。次に、集団

資源回収のところですが、家庭ごみ組成調査によると、燃せるごみには資源化できる紙が10パーセント入っているわけですね。しかし、この後の「市民の協力により資源化できる紙類100トンが集団資源回収に出された場合…」という中の100トンという仮説の数字がどこから出ているのか、仮説として出す100トンという数字が曖昧かと思います。不燃ごみについては、「資源化できる金属類が約5パーセント含まれ…」というところで、「約5パーセント、240トン減った場合…」とこれは全量を仮説としています。なぜ仮説の数字をこのようにしているのか教えていただきたいです。次に、「生ごみの水切り」についてですが、「5パーセントの水分を絞ると…」ですと、分かったようで分からない話だと思います。これを出されたのは、主に収集運搬の段階で重量に変化が生じるからだだと思います。焼却炉に入れた場合、水分は蒸発していきますから、収集運搬の経費削減にストレートにつながる話なのではないかと思います。5パーセントの水分を絞るということを、市民に見える化するためにはどうしたら良いだろうか、何か知恵があればと思っています。次に「食品ロス」についてですが、「家庭から出る燃せるごみには約18パーセントの食品ロスが含まれており…」と書かかれています。家庭ごみに含まれる「食品ロス」とは何を指しているのでしょうか。それを示さないと市民は何を言っているのかよく分からないのではないかと思います。例えば、スーパーマーケットで買ってきて冷蔵庫に入れっ放しにして、賞味期限が過ぎてごみ箱に放り込んでしまったというようなものを指しているのか、それとも、まだ食べられるのに人参の半分をごみにしてしまったということも指しているのか、私には分からなかったのです。そしてここで「10パーセント…削減したら…」という数字が出てきますが、資源化できる紙類と同様にこれはどういう数字なのでしょう。

○佐藤(幸)委員長　石渡委員から多くの質問がありました。今お答えできるところと、整理してお答えしたいところ等があるかと思いますが、事務局いかがですか。

○資源循環総務課長　まず「資源化にかかる経費」についてですが、委員のおっしゃったとおり、資源化には多くの経費がかかります。ですから基本計画にも経費削減について書かせていただいて、市民の皆様にご協力をお願いしております。表現に苦勞しましたが、委員よりこのご質問いただき、このようにまとめ、回答させていただいて良かったと思っています。さらに収集経費、人件費を含めてはどうか、ペットボトルについては県内平均との差を示せばより分かりやすいのではないかと、というご意見を頂きました。また、経費をこれだけ要していますが、協力していただけるとこれだけごみの資源化と経費削減になります、というご意見を承りました。来年度から横須賀ごみ処理施設稼働に向け、分別収集が一部変わることをお伝えする「ごみトーク」を行います。ご意見を踏まえて、この資料の内容を使わせていただこうと考えています。市民の皆様へ伝えるための表現はそれまでの宿題とさせていただきます。ありがとうございます。「缶・びん・ペットボトル」の混合収集については、ペットボトルと混合して収集することでびんが割れにくくなるためです。缶を別に収集すれ

ばよいのではという話も出てくるのが予想されますが、それには経費が嵩んでしまう、というように、きちんと説明するということが大事なのだらうと思います。

○資源循環総務課計画調査係長 「生ごみの水切り」については、燃せるごみの焼却量が減るというよりは収集量に直接関わるので、ご指摘のとおり、収集経費の削減として説明する方が理解を得られやすいのではないかと思います。「5パーセントの水分」というのは、手を使って水切りネットをキュッと絞ると、減らせる量だそうです。器具を使って水分を絞ると、30パーセントくらい減る場合もあるそうです。それを皆様に配ったり買っていたりするよりは、できる範囲で絞ってくださいとお願いすれば、5パーセント削減できるのではないかと示しました。「食品ロス」については、買って来たけれどもそのまま捨ててしまったり、袋を開けて一部は消費したけれども残りに手を付けず捨ててしまったという「直接廃棄」、それから「食べ残し」、そして明らかに食べられない物は除きますが過剰除去された野菜などを「調理くず等」として分類しております。昨年度、神奈川県が調査マニュアルを作成しましたので、今年度はそれに沿って燃せるごみの組成調査を行っております。次に仮説の数字ですが、資源化できる紙類については、ごみ処理基本計画28ページで、900トンを集団資源回収に移行する目標を立てております。平成28年度回収促進袋を全戸に配り、当初はその効果があったのですが、時間が経つにつれ効果が薄れてきているようでして、900トンというのは頑張らなければいけないというところですが、仮説として10パーセント100トンと記載しております。

○佐藤(幸)委員長 横須賀ごみ処理施設の稼働に先立って「ごみトーク」の中で、資料として使っていくとしたら、石渡委員から出た質問については、もっと市民に分かりやすい言葉でトークをしていけば、効果が上がるのではないかと感じました。「資源化できる紙類」については、こういうものは資源化できる紙類として集団資源回収に出して良いですよ、ということを書真などで示すと良いのではないかと思います。基本計画で目標が決められているのであれば、「これがサンプルですから皆さんがんばって集めてもらえませんか」というような、もう少し突っ込んだアピールがあってもいいかなと思いました。

○資源循環推進課長 「ごみと資源物の分け方・出し方」の10ページ「その他の紙」に、イラストがあります。包装紙、紙袋、紙箱等を載せております。

○佐藤(幸)委員長 「その他の紙」は範囲が広いですね。こういう広範囲のものもターゲットを絞って、先ほどの資料に加え、「ごみトーク」に役立てていただければと思います。

○リサイクルプラザ館長 石渡委員からのご意見・ご質問の中で2点、発言させていただきたいのですがよろしいでしょうか。

○佐藤(幸)委員長 はい。どうぞ。

○リサイクルプラザ館長 「容器包装プラスチック」についての公益財団法人容器包装リサイクル協会が実施するベール検査の市民への説明について、なかなか難しいのではないかとありますが、おっしゃるとおりであると思います。簡単に説明させていただきますと、容器包装プラスチックは公益財団法人容器包装リサイクル協会に処理を委託しております。横須賀市から出る容器包装プラスチックのベールを引取る訳ですが、それには引取基準があります。その基準に合致しているかどうか、例えば、ベールの大きさですとか、容器包装プラスチック以外のものがどのくらい混ざっているか、という検査があります。ここで、いわゆる2重袋の検査もありまして、その検査結果が悪いことが続くと、引取りを拒否されてしまいます。なかなか難しいのですが、これを市民の皆さんに分かりやすく簡単に説明できるようにできればと思っております。ペットボトルの引取価格の県内平均と本市の額についてですが、平成29年度上期は県内平均が-44,868円です。マイナスというのはこの金額で業者が買ったという意味です。それでは本市はというと-14,000円です。なお、同年度下期は県内平均が-40,235円、本市が-19,000円です。上期より上がりましたが、県内平均より低いです。これが県内平均まで向上すると資料に載せさせていただいている程度の収入増が見込めます、ということです。これについてもどのように説明していくかについては、検討させていただきたいと思っております。

○國分委員 「食品ロス」についてですが、主婦は財布を預かっておりますので、そんなにポイポイ捨てないと思います。私はうちの生ごみを庭のミミズとナメクジに食べさせておりますので、一切ごみとして出しておりません。そういうことをしない人は水切りをきちんとしてもらうなどはとても大事だと思います。今日が賞味期限であっても、例えば牛肉の色がちょっと変わっていたとしても、塩こしょうして焼いて食べればおなか壊しませんから、簡単に主婦は捨てないと思いますよ。

○藤田委員 平成12年に、現在の家庭ごみ4分別を決めた時、私はこの席にいました。その際、市民がどれだけ楽をするかというのが1つありました。それが缶、びん、ペットボトルを混合収集にするかどうかの話でした。びんを色ごとに分別する等、他の分別方法も検討しました。運搬時にびんが割れてしまうかどうかについて、市の職員も多数参加して8月の暑い日に実験をしました。池上から長坂へ運び組成分析をしたところ、混合収集ではびんはほとんど割れていませんでした。それで「缶・びん・ペットボトル」として収集を行うようになったのです。びんを別に収集すれば、今のリサイクルプラザのガラス混入の悩みなどなかったのかもしれませんが、それでは分別をそこまで市民に負担させて良いのかどうか、という話になってきます。私はびんまで色選別するようなことは市民はやっていけないので

はないかと思っています。この条件下でこの数字見たら、リサイクルプラザは良く頑張っているかと思っています。その当時、いろいろな意見が出ました。びんを箱に色選別するという意見が多かったです。しかし、その箱を誰が配るのか、誰がその箱代を払うのか、結果、混合収集で落ち着いて、市民のためには良かったのではないかと思っています。

○佐藤(幸)委員長 分別収集の形を決める作業は、市民参加でやったのですね。

○藤田委員 平成11年頃からやっておりました。

○佐藤(幸)委員長 ほかにご質問等がありますか。

○北村委員 前回の65回審議会においての対応で、「外国人のごみ分別指導等」に関する質問に対し、資料を出していただきましてありがとうございます。外国籍の方の5,421人という人数は、横須賀市の人口全体からではわずかであると思いますが、在住している地域ごとの特性によりますが、自治会との連携ですとか広報ですとか、どこまでどのような形で徹底されているのか、また資料にはA4版のごみ集積場ステッカーがありますが、外国の方に読んでいただいて理解していただいているとの認識でしょうか。

○資源循環推進課長 個々に、この黄色いシールを貼ってきたものについて情報が入ってきて、調査に伺います。また、集積所のごみ出しの状態が悪いと、パトロールの者がおりますので、袋を空け中身を確認するなどして、個々に指導に伺います。地域の中にどこにどの国籍の方がお住まいかは、なかなか把握しきれていないのですが、時々町内会の役員さんなどからこういう国の人が住んでいますという情報が入りますと、外国語で作成したパンフレットをお渡ししていただくようお願いをしております。

○北村委員 外国人の方がこのパンフレットの内容が分かっているかどうかは把握されていない訳ですか。

○資源循環推進課長 分かっている方もいらっしゃるかと思いますが、把握はしきれてはおりません。

○北村委員 今回も外国人向けのパンフレットは相当な部数を作られているようです。その経費をどうというのではないですが、情報を発信していかないと、近隣に住んでいる日本人とうまくコミュニケーションが取れていれば良いのですけれども、日本人の特性といえますか、周りが困っているから自分が片付ければ良いわ、という地域の方の善意を、外国人の方は、「いいんだ、捨ててもどうせ片付けてくれるから、いつもあそこに捨てているから、

自分たちもあそこに捨てておけば、誰かが片付けてくれるからいいや」と思ってしまうのではないのでしょうか。実際私も何か所かこういうことを聞いているものですから、せっかく資料を作られるのであれば、そういうところを徹底的に検証すれば、地域の人にとっても在住外国人にとっても良好な関係維持に有効なのではないかと思います。もう一つ、「トンネル内の清掃」については、国道ですから、管理事務所が処理するものなのでしょうが、この資料に「依頼しました」とありますが、この結果についてはいかがでしたでしょうか。

○資源循環推進課長 報告はいただいておりません。報告をくださいと言っておりませんので。

○佐藤(幸)委員長 北村委員から外国人に対してもう少し分かりやすいアプローチをすることが近隣の方と良好な関係を保つのに役に立つ、という貴重なご意見をいただきました。「ごみトーク」の中で、外国人の方との意見交換の場を計画されているのでしょうかけれども、是非今のご意見を反映させた形で進めていただければと思います。

#### ②使用済み小型家電の回収量増加の取組みについて

○佐藤(幸)委員長 続いて、議事の（２）その他の「使用済み小型家電の回収量増加の取組みについて」事務局から説明をお願いします。

○資源循環総務課山崎主任 （資料5に基づき説明）

○佐藤(幸)委員長 事務局の説明について、質問、ご意見のある方いらっしゃいますか。

○松本委員 処理経費に関連して、事業系ごみ袋の話をお聞ききいたしたいです。私も北久里浜商店街では、ごみ袋を一括購入して組合員さんにお分けするという事業を行っています。この形は衣笠商店街と北久里浜商店街だけで行っておりますが、昨年11月にこのごみ袋が高騰してしまったのです。人件費や処理原価の高騰によるものということでした。今まで3,380円で、衣笠は3,800円でした。今まで衣笠商店街からはうらやましがられていたが、一気に4,500円に1120円も値上がりしてしまいました。北久里浜商店街は1回あたり500セットを購入してストックしていますので、これだけ値上げされると商店街としては死活問題ですので、至急廃棄物収集運搬事業者の常務さんとお話する機会を持ちまして、今後消費税増税がありますので今回限りということで衣笠商店街と同額の3,800円としていただきました。これを行政へお話しすることかどうかですが、行政として何かお考えがあればお聞かせ願いたいです。

○佐藤(幸)委員長 事業系のごみ袋についてということによろしいでしょうか。

○松本委員 はい。

○廃棄物対策課長 そのお話は市としては初めて聞きました。事業者から排出するごみの処理については、事業者の責任で行うことになっておりますが、情報は収集していきたいと思っております。

○佐藤(幸)委員長 全体を通してのご意見ご質問がある方はいらっしゃいますか。

○青委員 色々な議論があつて、発言を伺っておりますと、とても勉強になって有り難いと思っております。先ほど佐藤(明)委員が話されたとおり、2017年以降、中国を中心に様々な政策の変更があつて、その影響を受けているということは日本各地で聞かれております。それにどう対応したら良いのだろうということですが、プラスチックを中心に減量していく道筋を作っていかなければならないということは間違いなだろうと思います。今日のお話しにもありまして、**「集団資源回収」**はやはり重要だと思うのですが、**「集団資源回収」**にはどうしても限界があつて、専門的な知識を持ったプロが減ってきているという印象を受けるので、人材の育成という部分も重要であると感じました。藤田委員からの**「手選別しかない」**というお話も、これも大きな問題で、コストを税金でという訳にはいかないのが、コストをどうやって補てんできるようにしていくのかということは今から重要であると感じました。そういった意味では、今日の資料を見させていただいて、経済効果を徐々にですが見える化したという市の努力はすばらしいと思います。これからも経済効果を示していくことは重要な点でして、努力しながら明確にしていく必要があるのだと実感いたしました。**「食品ロス」**についてですが、資料4にある数字は実際に市でごみの組成調査をされた結果を示されたのですか。私も学生と共にプラスチックごみをどのように減量するかということで、昨年夏以降、神奈川県内、特に相模湾に面した13自治体にヒアリングさせていただきましたが、色々な問題が出てきています。**「食品ロス」**についても、横須賀市の近辺、葉山町、逗子市、鎌倉市でキエーロの導入や生ごみ処理機の購入補助制度があつて、その取組みは進んでいるのですが、購入補助制度の効果はどうなのかと思いました。先ほど國分委員が自分の家庭から生ごみは出さないと言われたように、補助を受けられた方はキエーロ等を使用し、生ごみは出さないようにされています。食品ロスの組成調査結果の数字は、こういったところからどれだけのこういった内容のものが実際に出ているのかを明らかにした方がいいと思うのです。購入補助制度を利用してキエーロ等を購入されている取組みが進んでいる地域ですと、そういった方たちの数字が**「食品ロス」**の調査結果に出てきているはずなのですが、その数字がどのようになっているのか、疑問に思いました。**「削減」**というところでは、経済効果が高まるような仕組みを市民と共に考えていきながら、佐藤(明)委員が言われたよう

に実際に現場にいる方たちの取組みが反映できるようなところを作っていく、その減量に向けた努力をみんなですべきである、ということを感じました。

○佐藤(幸)委員長 青委員のご質問等に対して事務局からお願いします。

○資源循環総務課計画調査係長 「食品ロス」の調査については、ごみ組成調査を4回実施する予定で、すでに3回実施し、4回目は2月下旬に実施予定です。平成30年度から実施する県内自治体が増えまして、県もその結果を取りまとめ、県内に周知していくということです。この資料4の5-(2)にある18パーセントという数字は6月と9月に実施した調査の結果です。

○資源循環総務課長 4回の調査は、6月、9月、11月、2月で、2か所から収集したごみを調査します。1つは比較的最近できた団地で、若い世代の方が多く暮らしていらっしゃいます。もう1つは古くからある街で、高齢の方が多くお住まいになっていらっしゃる所です。地域的に特徴があり異なる所を選んでおります。季節も分けて実施しております。燃せるごみ約150kgを収集してきまして、南処理工場で展開し、県のマニュアルに従い、丸々手を付けられていない物、食べ残し、調理くず等というところで分けて、集計しています。6月の時はスイカ丸々1個、9月の時は大きなレジ袋に内臓系の鶏肉が入っておりまして、そういうのがあるとその分類の数値が高くなるということが特徴的でした。具体的に申し上げますと、6月の調査では厨芥類（生ごみ）が燃せるごみ全体の34.8パーセント、直接廃棄が3.4パーセント、食べ残しが7.1パーセント、調理くず等のうち過剰除去が3.7パーセントで、9月それぞれ35.0パーセント、5.3パーセント、13.0パーセント、3.7パーセントでした。来年度も実施して「食品ロス」を把握し、それを基に市民の皆さんへ食品ロス削減の啓発をしていきたいと思っております。

○青委員 今お答えいただいた点は非常に重要で、若い世代が多い所と高齢者が多い所と分けて調査していることが良い点です。若い世代が多い所と高齢者が多い所の違いはどこかという点は出ていますか。

○資源循環総務課長 高齢者が多い所は、丸々捨てられているものが多いと感じましたし、食べ残しがなかったりします。2回の結果ですので、今後もっと回数を重ねていくことで、多くのことが明らかになってくるのではないかと思います。それを基に、市民の皆様にご説明するのかというのは次の段階で考えたいと思います。

○青委員 2年前に横浜市で同様の調査をしましたが、若い人、独身の多い地区は生ごみがほとんど出ないのです。恐らくコンビニ等で弁当を買ってきているのだと思われるのです

が、一方、以前からある集合住宅ですと、大変多くの生ごみが出ています。自宅で食事を作られている方が多いためだと思われます。食品だけではなく、小型家電もそうなのですが、世代間の生活の違いと結びついてくるのだということが分かってきます。このように若い世代が多い所と、高齢者が多い所ではどうしても変わってくるので、このような違いをきちんと見ながら何をどうどこまで減らしていくのか、分析を進めて対応していくことが重要であると感じました。

○佐藤(幸)委員長 議事資料に沿った審議は以上です。ここで、事務局より報告事項があると聞いておりますので、事務局、お願いします。

○資源循環総務課山崎主任 事務局より2点報告させていただきます。1点目は、2020年3月に稼働する横須賀ごみ処理施設の愛称が決定したことについての報告です。愛称を公募しましたところ、1,626点の応募があり、「エコミル」に決まりました。「エコミル」は、環境に良いという意味の「エコ」と、工場の意味の英単語「mill（ミル）」、日本語の「見る」を組み合わせた造語です。結果については、広報よこすか等でお知らせしました。

○資源循環推進課長 2点目は、ちらしを机上に置かせていただきました。「アイクルフェアでフードドライブ」というちらしです。食品ロス削減の一環として実施するもので、これはご家庭や事業所などから余っている食品をお持ちいただきまして、食の支援を必要としている方々へお届けするボランティア活動をフードドライブといい、全国的に広まっている活動です。NPO法人の方に協力いただいて、アイクルフェアで実施させていただきます。すでに昨年7月、11月に実施いたしまして、今度の3月のアイクルフェアでも実施いたします。もしよろしければ、お持ちいただければと思います。よろしく願いいたします。

○佐藤(幸)委員長 もう少し時間がありますので、全体を通してのご意見ご質問がある方はいらっしゃいますか。

○清宮委員 ごみ処理基本計画進行管理の全体的な感想、今後の方向性についてお話しさせていただきます。総合評価につきましては、15ページに書かれていることですが、計画目標を達成することは、非常に厳しいと思っています。減量化・資源化策につきましては、大体考えられていることには手を付けられているようですから、今のペースで同じようにやっていたら、恐らく目標達成は厳しいかなと思います。ではどうするのかというと、少しポイントを絞って、例えば経済効果のあることに絞ってとか、やり方を考えるとか、効果を比較することができないので難しいかとは思いますが、効率よく減量化が出来ていることについて力点を移すとか、検討していかないと目標達成は厳しいと思います。1点質問ですが、ペットボトル内のガラス混入対策として、市として考えられているとのことですが、

具体的にはどうなのでしょう。まさか、別車での収集にする訳ではないでしょうし。

○リサイクルプラザ館長 収集を今から変えるのは大変なことになりますので、今検討していますのは、付着したガラスを落とす機械を導入したらどうか、ということです。

○清宮委員 市で導入するということですか。

○リサイクルプラザ館長 はい。リサイクルプラザ内にペットボトルをベール化するプラントがございますので、その中にガラスを振るい落とすような機械を導入いたしまして、品質を上げることはできないだろうか、という検討をしております。

○清宮委員 とても、お高いですよ。

○佐藤(幸)委員長 目標達成への方法の検討については、事務局の宿題という形で、次年度に反映させていただければと思いますが、清宮委員、それでよろしいでしょうか。

○清宮委員 すぐに出てくるようであれば、もうやっているでしょうから、それで差し支えないです。

○飯田委員 「ごみトーク」の内容についてです。2020年3月の横須賀ごみ処理施設稼働が横須賀市では大きなイベントになり、分別内容についても、いままで不燃ごみに入っていたプラスチックを焼却処分することになり、最終処分量も減らす方向で進められています。その時に、分別についてどのようにするのか、生ごみとプラスチックを同じ袋に入れて出すのか別々の袋で出すのかということについて、経済的効果とごみ出しに対するモラルという両面を、どのように解決していくのかということ、市民の声を十分に聞いて決める必要があると思います。一緒の袋に入れて出すと、リサイクルできるような物まで、出してしまう人が増えてしまわないか、そこが重要なポイントですので、大きな議題として考えて、「ごみトーク」を行っていただきたいです。

○佐藤(幸)委員長 この内容も事務局で検討いただきたいです。こういう「ごみトーク」を実施したいという資料等を作られると思うのですが、次年度の審議会を出していただければと思います。

○資源循環推進課長 ご意見ありがとうございます。次年度も地域を回って「ごみトーク」を続けていきますけれども、ご意見を参考にしながら考えていきたいと思っています。

○佐藤(幸)委員長　本日の議事は以上です。審議会委員の任期は今年の9月をもって満了します。このメンバーでの審議会は本日が最後となります。各委員におかれましては、熱心にご審議いただきありがとうございました。それでは事務局にお返しします。

（資源循環部長より挨拶）

○事務局　本日の議事概要につきましては、出席された委員全員に内容のご確認をいただいた後に、公開とさせていただきます。議事概要(案)は、作成次第、各委員に送付いたしますので、発言内容等のご確認をよろしく願いいたします。委員長からのお話のとおり、現委員の任期は今年の9月をもって満了となり、今期の審議会は本日が最後となる予定です。次回の開催につきましては、委員の改選後、なるべく早い時期に開催したいと考えております。よろしく願いします。本日、お車でご来庁され、北口駐車場をご利用された方は駐車券をお渡ししますので、お近くの事務局職員までお声かけください。これをもちまして、横須賀市廃棄物減量等推進審議会を閉会いたします。本日はお疲れ様でした。ありがとうございました。